

平成30年度 栃木市広島平和記念式典中学生派遣報告会（H30.8.24）

「厳島神社・宮島の見学、千羽鶴の奉納」 D班

・厳島神社・宮島について 千ヶ崎絵梨（大平南）

宮島・厳島神社は、1996年に世界遺産に登録されました。島の周りを一周すると、約30キロメートルで人口は約1,400人の小さな島です。なんと、島に信号機はありません。ですが、宮島には水族館や多くの神社仏閣があり、観光客でにぎわっています。また島には野生の鹿がおり、観光客を楽しませています。そんな宮島のシンボルといえるのは海の中に建つ大鳥居です。この鳥居の高さは16メートル、屋根の長さは24メートルあります。この鳥居は平安時代には、すでにあったそうですが、現在見ることができる鳥居は明治8年に建てられた8代目になります。6時間周期の干満で潮が引くと、鳥居の下を歩くことが可能です。厳島神社では、市杵島姫命（イチキシマヒメノイノチ）、田心姫命（タゴリヒメノミコト）、漕津姫命（タギツヒメノミコト）の三人の女性の神が祭られています。そして、宮島は昔から神の島として崇められていたため御社殿を海水のさしひきする所に建てたといわれています。

・見学して心に残ったこと 高岩明璃（栃木西）

私は、厳島神社や宮島を見学して、その迫力に圧倒されました。

宮島で見た大鳥居は、写真で見たものよりもはるかに大きく感じました。また、厳島神社の外観は竜宮城を思わせるとガイドさんが説明してくれて、まさにそのとおりに思いました。私は、海に浮かんでいるように見えるときに行きたかったのですが、潮が満ちているときでは見ることができない、神殿を支えている柱や神殿の下の砂浜などを見ることができてうれしかったです。

厳島神社の大鳥居や神殿の朱色は鮮やかでとてもきれいでした。でも、厳島神社に劣らないくらい宮島の街並みはすばらしいものでした。厳島神社などの歴史のある建物の景観を損なわないようにするため、落ちついた雰囲気とのデザインの統一されていました。

栃木市の蔵の街もそのような工夫がされているのを思い出し、栃木市民として誇らしく思いました。

・見学して学んだこと 大野広夢（西方）

今回、僕が広島の平和記念式典への派遣で宮島・厳島神社を見学して学んだことは、厳島神社のような文化財として貴重なものも、どこの町にもあるようなありふれたものであっても、地域の宝として大切にすることです。宮島の人たちは、世界遺産や国宝である厳島神社はもちろんのこと、島にあるすべてのものを大切にしていました。僕も、見習ってふるさと栃木市を大切にしていきたいです。

また、島の人たちは、みんな気さくで、優しい人たちばかりでした。この優しい心を世界中の人が見習っていけば、日本も世界もとても平和になると思います。

僕は厳島神社のような先人たちの知恵と技術がつまった建物を後世に残していかなければならないと強く感じました。

今回学んだことを普段の生活にも生かしていきたいです。

#### ・原爆の子の像・千羽鶴奉納について 大木禅心（東陽）

僕が手にしていた千羽鶴は各クラスの生徒が教え合いながら、そして心を込めて作ったものです。原爆の子の像のまわりにある千羽鶴奉納所に向かうと、外国からの千羽鶴や、千羽鶴で絵や文字を作っているものなどがありました。日本だけでなく色々な国の人々が心を込めて作った鶴を見て、僕は団結することの素晴らしさを学びました。

原爆の子の像は佐々木禎子さんという2歳の時に被爆し、小学校6年生になり、白血病にかかってしまった少女がモデルとなっています。禎子さんは、白血病が治ると信じ、葉の包み紙で鶴を折ったのが千羽鶴の始まりだといわれています。

世界中の人々が強く平和を願い、思いを込めた千羽鶴は強い気持ちがこもったまま原爆で亡くなってしまった方々、佐々木禎子さんに届いていると思いました。

#### ・千羽鶴を奉納したときの気持ち 本島恭平（寺尾）

広島派遣三日目、私達は、千羽鶴の奉納をしました。他の学校の生徒達も大勢いる中での奉納でした。まず最初に驚いたことは、千羽鶴の数の多さです。僕の想像以上でした。これほどまで多くの方々から千羽鶴が送られていることを改めて実感しました。また、千羽鶴を奉納する際、その箱には、折り鶴で、「世界平和」や「絆」など、平和に関するような様々な文字がつくられていました。そこからは、多くの人々の平和への願いがとても伝わってきました。

僕が奉納したときには、一日目、二日目で学んだ、戦争の恐ろしさ、被爆の残酷さ、平和の大切さを思い出し、「もう二度とこのようなことが繰り返されてほしくない」という気持ちで奉納しました。

僕は、今回の広島派遣で、自分の学校の代表として、千羽鶴奉納いうとても貴重な体験が出来てとてもよかったです。ありがとうございました。